

## あこう絵マップコンクール

あこう絵マップコンクール実行委員会  
会長 江端 益子

### 1 活動方針・目的

絵マップとは、自分たちの住んでいるまちについて調べたことを、水彩や貼り絵や立体などを使って創造豊かに表現した地図である。

このコンクールは、赤穂市に忠臣蔵以外にもたくさんの素晴らしい自然や歴史や文化があることを再発見し、子どもたちが自分のまちに感心を持ち、まちを好きになるようにしたいという思いから、子どもたちが自分たちの住むまちを探検したり、自然、歴史等を調べて、まちの宝物や問題点等を発見し、創意工夫を活かした絵マップを作り、公開審査会で発表することにより、郷土愛やまちづくりに対する意識を育み、将来のまちづくりを担う人材育成を目指している。

### 2. 活動内容

#### ①活動概要

○絵マップコンクールの実施(2003年から毎年開催/5年間実施)<http://e-map.fksj.org/>

募集対象:絵マップ(身近なまちを調べて自由に描いた絵地図)

応募資格:小学生以下の児童、幼児の個人又はグループ

応募作品数:第1回(03年)55点、第2回(04年)61点、第3回(05年)55点、  
第4回(06年)57点、第5回(07年)96点

○ 公開審査会(日時:9月中下旬の土又は日の午後,場所:関西福祉大学)

○ 表彰式(日時:11月の土又は日の午後,場所:赤穂市立図書館)

○ 作品展示会(関西福祉大学大学祭、赤穂市立図書館等で作品展示会を開催)

○ 絵マップ交流発表会(3年前から11月に赤穂市内で開催)

赤穂、たつの市、上郡町の絵マップコンクール入選者による交流発表会

#### ②活動の成果

あこう絵マップコンクールは市内の小学生に定着し、毎年ほとんどの小学校から応募があり、5年間324作品(年平均65作品)の応募があった。

当コンクールの特色は公開審査会で、子どもたちが200名超の多数の人の前で審査員に自分の作品を説明し質疑応答をする。これにより、子どもたちのプレゼン方法や発表態度は年を経るごとにレベルアップしており、絵マップの制作と発表を通じた子どもたちの成長に年々目を見張るものがある。

赤穂市での取り組みを参考に、2005年から御津町(現たつの市)で、2006年から上郡町で絵マップコンクールが行われるようになり、各入選作品を持ち寄って、毎年11月に交流発表会、1月に交流作品展を開催している。

#### ③実行委員会の概要

当実行委員会は、趣旨に賛同する主婦、サラリーマン、商店主、学生など63名で構成しており、すべてを様々な市民による協働・ボランティアで運営している。活動費用は、実行委員の会費、市民と市内企業からの寄付、及び年によって一部を行政からの助成金により賄っている。

### 3. 今後の課題等

市民の手づくりのコンクールを継続することにより、「絵マップコンクールのまち・赤穂」として、子どもたちが楽しみながら、自分たちのまちの宝物を発見して自慢したり、課題や問題点について検証し、解決策を提案するというような「子どもまちづくり文化」を根付かせたい。

また、ほかの地域で絵マップコンクールを実施したいところがあれば、ノウハウ提供や支援活動を行うとともに、交流発表会や交流作品展を通して、絵マップを通じた子どもたちの地域間交流の輪を広げていきたい。



## あこ絵マップコンクール

主催: あこ絵マップコンクール実行委員会

協力: 西播磨地域づくり女性会議 関西福祉大学附属地域センター  
関西福祉大学学生絵マップコンクール実行委員会 赤穂市母親クラブ連絡協議会  
後援: 赤穂市 赤穂市教育委員会 赤穂商工会議所 関西福祉大学  
赤穂市自治会連合会 赤穂市PTA連合会

## 絵マップとは

自分たちの住んでいるまちについて調べたことを、水彩や貼り絵や立体などを使って創造豊かに表現した地図





## 絵マップコンクールの目的

子どもたちが、まちを探検したり、調べる

まちの宝物や問題点等を発見する

創意工夫をして絵マップを作る

たくさんの方の前で発表する(公開審査会)

たくさんの方に作品を見てもらう(作品展示会)

- ①子どもたちが、自分の住むまちが好きになる
- ②子どもたちのまちに対する興味や見る目を育む
- ③子どもたちの目を通して、大人もまちの良さや課題に気づく

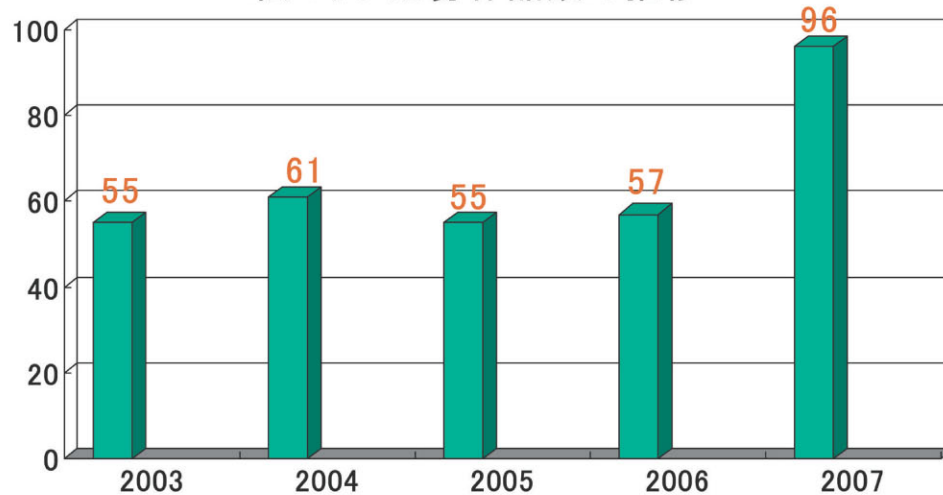
## 活動の概要

### ①絵マップコンクールの実施

募集対象: 絵マップ(身近なまちを調べて自由に描いた絵地図)

応募資格: 小学生以下の児童、幼児の個人又はグループ

絵マップ応募作品数の推移



## ②公開審査会(例年9月中旬/関西福祉大学にて)



毎年200名以上の参加者がいます。



絵マップソング&ダンスも応援に登場。



子どもたちは緊張しながら発表します。



ハラハラドキドキ。審査を見つめる熱い視線

## ③表彰式(例年11月)

審査員をはじめ、市内の協賛団体や実行委員もプレゼンターになって、にぎやかに表彰します。



## ④交流発表会(例年11月)

赤穂、たつの市、上郡町の絵マップコンクール入選者による交流発表会。  
この日は、子どもたちがよそのまちの作品を審査します。





## ⑤ 作品展示会(例年1月)＋各種イベントでの発表

たくさんの市民に見てもらえるように、赤穂、たつの市、上郡町との交流作品展示会をはじめ、市内外の様々なイベントで絵マップの展示や発表を行っています。



交流作品  
展示会



赤穂義士祭の「路上パフォーマンス」  
で絵マップの優秀作品を発表

## ⑥ 実行委員会

趣旨に賛同する主婦、サラリーマン、商店主、学生など63名で構成。全てを様々な市民による協働・ボランティアで運営。

活動費用は、実行委員の会費、市民と市内企業等からの寄付、年によって一部を行政からの助成金。



募金活動の様子

## 活動の成果(5年間の活動を通して・・・)

### ① 子どもたちの成長

子どもたちのプレゼン方法や発表態度は年を経るごとにレベルアップしている。

### ② 市内の学校や市民への浸透

毎年市内のほとんどの小学校から応募があり、また全体として、応募作品数が増加している。

### ③ 近隣への波及と絵マップ交流

赤穂市での取り組みを参考として、近隣のたつの市、上郡町でも市民主体の絵マップコンクールが実施されるようになった。  
また、絵マップを通じて、子どもたちの地域間交流を行った。

## 今後の課題等

①「絵マップコンクールのまち赤穂」として、子どもたちが楽しみながら、まちづくりに取り組めるような「文化」を根付かせたい。

②絵マップコンクールを始めたい人・地域へのノウハウ提供や支援活動を行うとともに、絵マップを通じた子どもたちの地域間交流の輪を広げていきたい。